

新規就農者をご紹介します

今回の「農家の窓」では、長野県の認定就農者として農業経営を開始された、お二人の新規就農者をご紹介します。

お二人は、立科町の人・農地プランにおいて「地域の中心となる経営体」として位置付けられており、様々な支援を受けながら、営農の発展を目指しています。



関 陽一さん (藤沢)



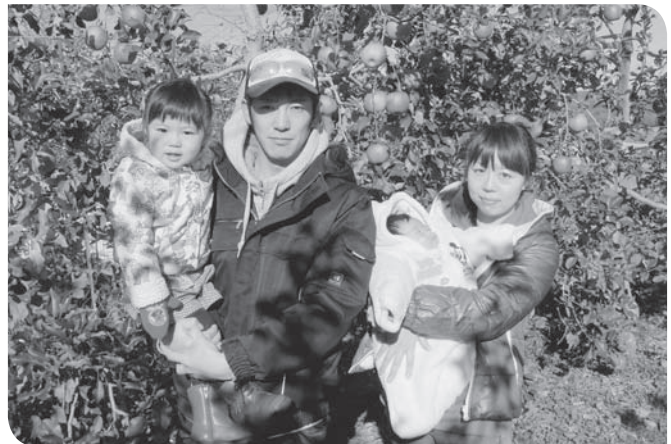
私は、ここ立科町で生まれ育ち、学校卒業後は県外で保育士をしていました。

仕事にも慣れた頃、農家だった祖父が他界し、祖母も高齢のため農業を続けられなくなり、畑を漬すという話になりました。祖父母が大切にしてきた畑が無くなる事に反対だった私は、跡を継ぐ決心をし、Uターンで就農しました。

現在は夫婦で、水稻、りんごの栽培と、作業受託をしています。夏の草刈りや、冬の剪定作業は大変ですが、豊かな自然の中、太陽の下で働くこの仕事に、やりがいを感じています。

立科の恵まれた環境で育ったお米やりんごは、県外のお客様からも美味しいと好評で、わざわざここまで足を運んで下さる方もいらっしゃいます。この様に、皆様に喜んで頂ける事が私たちの喜びであり、もう一つのやりがいでもあります。

これからも、丁寧な仕事を心掛け、自然栽培にも挑戦していき、安心・安全な、美味しい作物を育てていきたいと思えます。



栗原 章さん (柳沢)



立科町の皆様にも馴染み深いりんごを生産しています。

この町に生まれ育ち、子どもの頃から農業はとても身近なものでしたが、平成25年度より祖父から農業経営を継承する形で、新規就農者として腰を据えて、取り組ませて頂く事になりました。

家業のお手伝いではなく、自分が主体的に営農していくと、判断に悩まされる場面に出くわす事も多々ありますが、それを乗り越えると少しずつ面白

さになっていくことを、日々実感しています。

今年は春の凍霜害に続き、夏の干ばつ、11月に入ってから急激な冷え込みで、収穫期を迎えた主力品目のふじにとって、厳しい状況が続いていますが、例年通り寒さを耐え抜いた甘くておいしいりんごをお届けするために、作業を続けたいと思えます。

今はまだ、比較的小規模の営農ですが、りんご産地の維持のために園地の拡大と品質向上を念頭に、何よりご指導くださる方々に報いるためにも、農業に取り組みたいと思えます。